

先輩が後輩に奨学金支援!

●「いま学校は『浦和高校』最終回を迎えて!

3月21日から続いていた読売新聞の特集「いま学校は『浦和高校』」の最終回(4月25日、朝刊・地域版)では、「心身を鍛える伝統行事」ということで、浦高から古河市までの50キロを7時間以内に



歩く11月の「強歩大会」【写真①:浦高スタート、2013年第55回大会アルバムより】【写真②:白岡関門でのクールダウン】、森林公園で行われる5月の「新入



生歓迎マラソン」(10キロ)【写真③:スタート直後】、1年生夏の「臨海学校」などが紹介され、さらに創立120周年に向けた「過去の歩み」も書かれています。

【浦和高校の歩み】

1895年	第一尋常中学校として浦和町に創立
1896年	開校式、第1回入学式
1936年	第1回耐久競走
1937年	現在地(さいたま市浦和区領家)に移転
1948年	県立浦和高校に改称
1951年	第1回新入生歓迎マラソン
1959年	戦中に途絶えた耐久競走が「強歩大会」として復活
1995年	100周年記念式典
2005年	浦高百年の森事業スタート
2013年	ラグビー部が54年ぶりに全国大会出場
2015年	創立120周年

さらに同窓会が始めた「未来の人材育成」への取り組みについて、川野幸夫会長へのインタビューが掲載されていますので、ご紹介を。
【写真④:百年の森05年】



* *



◆先輩が後輩に奨学金支援
同窓会長 川野幸夫さん
(72) ヤオコー会長

浦和高校の約3万人の卒業生はみな、浦高OBであることを誇りに思っている。

同窓生のつながりは強い。同窓会の支部は、大宮、浦和など県内だけでなく、関西、九州といった県外、霞ヶ関、県庁など職域ごとに広がり、24団体にもなる。昔は親睦会のような小さな集まりだったが、創立100周年からの動きは活発だ。110周年には、校歌にでてくる荒川の源流を守ろうと、寄居町に6ヘクタールの山を借りて「浦高百年の森」と名付けて、植林した。

そして今回、120周年記念事業として、昨年、公益財団法人「県立浦和高等学校同窓会奨学財団」を設立した。以前の校長先生が「意欲ある生徒は少ないが、経済面での障害もある」と話されたのを聞いた。確かに、経済的な理由でやりたい勉強が存分にできない子どもが増えているように感じる。浦高はリーダーたるべき人材を育成する学校。世界で活躍する若者を輩出するために、同窓会として可能な限り支援することにした。

在校生には、「短期の海外サマーセミナー参加」「経済的理由で勉学が困難な生徒の修学」を助成する。また、在校生・卒業生を対象とする奨学金も設け、海外留学の費用を一部負担したり、進学が困難な卒業生の進学費用を援助したりする。いずれも返済は求めず、OBの寄付や運用益で制度を維持する。

卒業生の海外留学を支援する、高校同窓会による財団設立は国内初の試みになる。昨年度から一部で制度運用を始めており、支援を受けた生徒5人が約2週間、ミシガン大学のサマースクールに参加した。当面、年20~30人の留学生を支援するのが目標だ。

同様の支援を行いたいと考えている他校から、問い合わせも多く寄せられている。全国的に広まれば、日本全体を帰ることにもつながる。その第一歩になればうれしい。

「埼玉の浦高」を、「世界の浦高」と呼ばれるようにしたい。先輩が後輩を支援するサイクルが動きだし、未来ある若者たちが、浦和の地から世界へ羽ばたいていくことを期待したい。

* *

昨年、同窓会から2,900万円を拠出して事業を開始し、今年3月時点で1,090万円の寄付が寄せられ順調に事業がスタートしています。当面の目標は7,000万円とのことです。どうぞよろしく!